

夕刊 常磐新報 定價(一年)三圓 零售每份五分

偉大なる哉 時と勢

内閣總理大臣たるには政黨の首領たるを要するに疑なく信じて居つた、議會政治は...

人材登用と

新經濟政策の待望

(對時庵)

歐洲戰亂後に於ける世界經濟となり、其對策に感心せざるを得ず、吾が帝國を...

常磐春秋

小名濱商人は平町商人の支配下として永へ間、甘んじて居た。仕人は平町より...

金物は 商店 平町五丁目 電話九番九番

社への 第一歩の 印象 立花秀吉氏

小野氏に反對する人々には此の狀態を自棄させたいと君は感謝の目を射た...

時事漫筆

小名濱信用組合にては定款變更の爲め臨時總會を來る二十九日開くことになつた

在來の信用組合に購買を加へる、賣買品、船舶用油類肥料米穀飼料を並べてる

第四十四條に「組合員は理事の承諾を経るに非ざれば本組合に於て取扱ふ物を不得す」など云ふ條項がある、批判は追て

五月二十五日小名濱第一次家屋税調査委員會が開催さる、充分なる調査と認識不足のないように各自生活の生命線だからね

五月二十七日海軍記念日は小名濱の海軍班では午後一時より講堂に集集し記念式を挙行し、海軍將校を招き講演もある筈

五月二十六、二十七日の雨種痘を施行すると

玉の井のばら／＼事件、七月十五日に犯人を自撃した人が出た七十五日と云へば人の噂の最終日だ

荒木陸相「皇軍の動くは唯大命にのみまき、私兵の如き行動を許さずと宣す

滿鐵六年度決算は空前の赤字——三百四十萬圓の欠損と發表、事變の祟りか

福島貯蓄銀行

小名濱町代理店 店舗改築中

去る四月二十六日開店された福島貯蓄銀行小名濱代理店は店主福尾伊太郎氏が極力、富は「貯金よりの標語を旗印として勸説中なりしが大に成績を見るものあり店舖の改築を餘儀なくされ現住宅の一部を改造して代理店、店舗となすべく目下改築中である其間の事務一切は目下下内に於て執務中なりと

明雲堂眼科院

從前の泉驛前に日ノ澤醫學士を招じて

泉驛前に堂々たる病院を建設したる明雲堂眼科院は昨年中院長吉田氏が春秋に富む身を持ちながら不眠の客となりし以來休業中を迎へて二十日より開業することになった

日の澤先生は東北醫科大學を卒業し眼科醫局研究後岡山の有名なる倉敷中央病院に今日迄研究された眼科醫としての權威者である、前院長吉田先生とは共に小柳博士に師事したる深き因縁ある間柄なりと

開業廣告

眼科一般診療 明雲堂眼科醫院 東北醫學士 日ノ澤孝三 泉驛前

祝更生號 外科専門 レントゲン科 上田科醫院 平町南町 電話二一九番

流行の魁 三井吳服店 平町三丁目 電話三三八番

佐藤齒科醫院 齒科一般口腔外科 小名濱町

寶屋商店 化粧品 高賣藥 班品 小間物 小名濱町米野 電話三三九番

錦港社印刷所 美術印刷 小名濱中島通り

内科・外科 小兒科・花柳病科 佐瀨醫院 小名濱中島 電話一三五番

内科 產科 婦人科 花柳病科 久保田醫院 小名濱町 電話二二番

洋品ハ正札店 値は安く 品は良く 丈夫な タマキ洋品店へ 小名濱磐城座入口

内科・外科・花柳病科 小齒科 中村醫院 病室の設備あり 小名濱町 電話一八番

美術寫眞 晝夜攝影 鈴木寫眞館 小名濱町中島通

美術寫眞 晝夜攝影 鈴木寫眞館 小名濱町中島通

柴田書店 書籍 文房具 運動具は「マルトモ」 平町四丁目 電話二三四番

内科 外科 花柳病科 レントゲン科 高久病院 平町田町 電話五二三番

内科 外科 小兒科 花柳病科 平川醫院 江名町

山野邊藥局 平町五丁目

西村屋藥舖 平町二丁目

易斷所 赤木教憲 小名濱町鹿島神社境内

祝更生

藝妓屋 若竹 小名濱町 電話二五番

佐々木善作 小名濱町

小名濱旅館組合

竹村智蓮 小名濱町

美術活版石版印刷 長瀬印刷所 小名濱町西町

齒科一般口腔外科 佐々木齒科醫院 泉驛前